



日本ワクチン学会 ニュースレター

vol.25

目 次

1. 第17回日本ワクチン学会学術集会を開催して
第17回学術集会会長 庵原 俊昭2
2. ワクチン関連トピックス3
3. 第18回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第1報）
第18回学術集会会長 廣田 良夫7
4. 第9回日本ワクチン学会高橋賞・第3回高橋奨励賞募集のご案内7
5. 会員会告
 - 1) 2013年度第1回日本ワクチン学会理事会議事録（2013年5月10日）8
 - 2) 2013年度第1回 Vaccine 誌編集委員会議事録（2013年5月10日）11

§ 第 17 回日本ワクチン学会学術集会を開催して

第 17 回学術集会会長

庵原 俊昭

(独) 国立病院機構 三重病院

2013 年 11 月 30 日、12 月 1 日の両日、津市の三重県総合文化センターで第 17 回日本ワクチン学会学術集会を開催しました。参加人数 730 人と、多くの方々の出席を頂き、誠にありがとうございました。今年は伊勢神宮式年遷宮の年にあたります。三重県として記念すべき年に学術集会を開催することができ光栄に思っています。

ワクチン、予防接種、三重県とキーワードを並べますと、多くの方は、日本の予防接種・ワクチン行政に貢献され、2011 年に亡くなられた「神谷先生」を思い浮かべられます。そこで、神谷先生の 3 回忌として、第 17 回学術集会のテーマを「日本のワクチン：神谷先生の宿題に答える」としました。学術集会では、会長講演として神谷先生が遺された宿題を総括し、1 題の特別講演、2 題の教育講演、3 題のシンポジウム、83 題の一般演題で応えて頂きました。

なかでもワクチンの副反応は大きな話題でした。2013 年 12 月 1 日現在、HPV ワクチンは積極的勧奨が中止され、12 月 25 日に開催されます副反応部会の動きに、日本の予防接種・ワクチン関係者だけではなく、世界の予防接種・ワクチン関係者が注目しています。私や神谷先生がフィラデルフィア小児病院感染症部門に留学中お世話になった Plotkin 教授（風疹ワクチン RA27/3 株の開発者、RV5 の開発アドバイザー）のメッセージを会長講演の中で紹介させていただきました。

ムンプスワクチンや全菌体百日咳ワクチン (wP) にみるように、副反応を重視するか、免疫原性を重視するかも重要なポイントです。副反応を重視するあまり、自然感染による合併症に目をつむることは避けなければなりません。また、見かけ上の効果に目を奪われ、本当のワクチンの効果を忘れてしまうことも問題です。今あるツール（ワクチン）をどのように使用するかが専門家の叡智です。

日本は出来上がった制度を大事にする国です。しかし、時代とともに制度が合わなくなることがあります。米国では、新しい知見に基づき、予防接種・ワクチン制度のどこかが毎年変わります。神谷先生も時代に合った予防接種・ワクチン制度が動くことを期待されていました。新しい免疫学の理論、ワクチン学の理論、疫学情報に基づき、「今使用されているワクチンが本当に効果のあるワクチンか、今行っている接種制度が本当に効果のある制度か」、いつも考えてみるのが大切です。

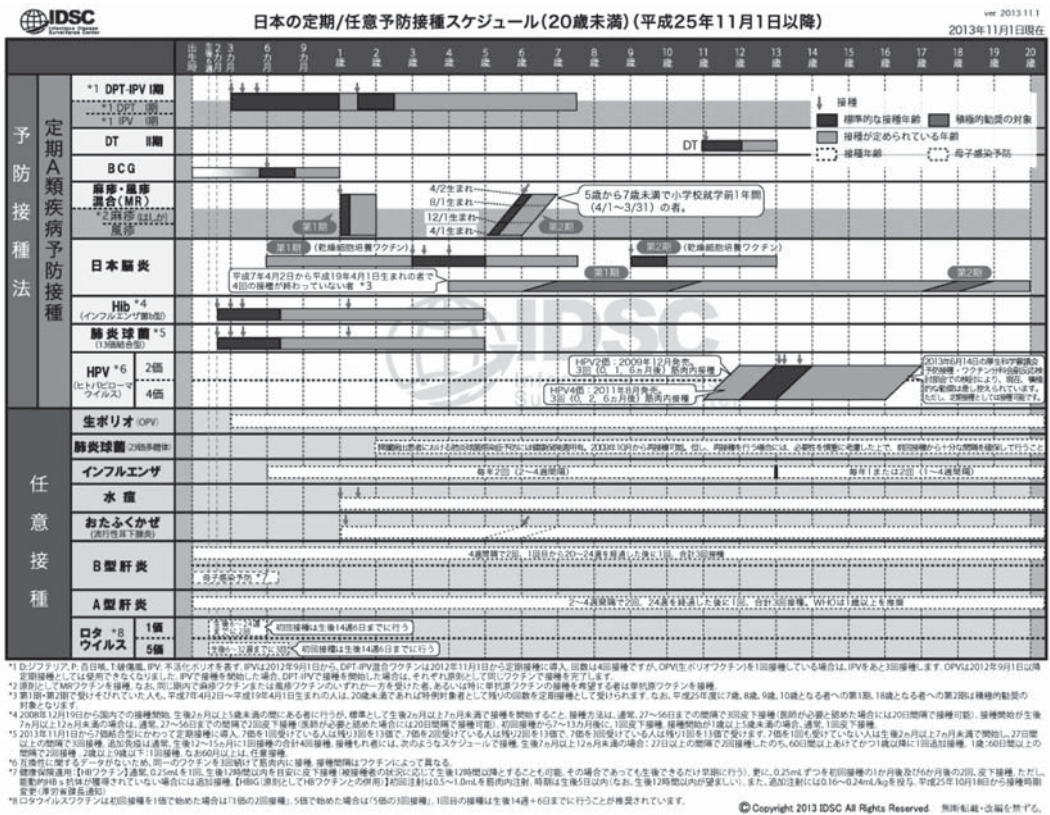
今年一番の寒波が日本全国を覆いましたが、三重県総合文化センターは熱気が満ち溢れていました。基礎、臨床、製造、疫学、いずれの分野でも研究を続けていますと、疑問が湧いてきます。また、この疑問が研究を続ける推進力になります。今回の学術集会で、皆様が持っておられた疑問への回答を、いくつか持って帰っていただけたならば幸いです。

§ ワクチン関連トピックス

1. 沈降 13 価肺炎球菌結合型ワクチンが定期接種に導入

2013 年 11 月 1 日から、沈降 7 価肺炎球菌結合型ワクチン（無毒性変異ジフテリア毒素結合体）（以下、PCV7）にかわって、沈降 13 価肺炎球菌結合型ワクチン（無毒性変異ジフテリア毒素結合体）（以下、PCV13）が定期接種に導入されました。PCV7 は 11 月 1 日以降、定期接種に使用することはできなくなりました。

これまでに PCV7 の接種を受けていた場合は、残りの回数を PCV13 で接種することになります。なお、日本小児科学会は、PCV7 を既に 4 回接種完了した 6 歳未満の児に対して、4 回目の接種から 8 週間以上あけて PCV13 の追加接種を行うことを奨めています。ただしこの場合の接種は任意接種となります。



国立感染症研究所：予防接種情報のサイト <http://www.nih.go.jp/niid/ja/vaccine-j.html> に掲載

2. B 型肝炎母子感染予防の接種スケジュールが変更

公知申請が認められ、母子感染予防として接種する組換え沈降 B 型肝炎ワクチン（酵母由来）（以下、B 型肝炎ワクチン）と抗 HBs 人免疫グロブリン（以下、HBIG）の接種時期が変更になりました。2013 年 10 月 18 日から健康保険適用も可能です（厚生労働省保険局医療課長通知：平成 25 年 10 月 18 日付、保医発 2013 第 1 号）

※詳しくは、日本産婦人科医会ホームページ (<http://www.jaog.or.jp/>)、日本小児科学会ホームページ (<http://www.jpeds.or.jp/>) に掲載されています。

3. 風疹と先天性風疹症候群（congenital rubella syndrome: CRS）の発生動向、2013年

2008年から風疹は感染症法に基づく5類感染症全数把握疾患になり、風疹と診断した場合は全例、7日以内に最寄りの保健所への届出が義務づけられている。

2013年の風疹流行は関東地方から始まり、近畿・九州地方に広がり、その後全国に拡大した（図1）。2013年第1～47週の累積患者報告数は2013年11月27日現在14,279人で、2012年1年間の報告数（2,392人）の約6倍となった（図2）。報告患者の年齢は約9割が20歳以上で、男性が女性の約3倍であった（図3）。これまで定期的予防接種を受ける機会がなかった1979年4月1日以前に生まれた男性（34歳以上）に多く、学校での集団義務接種であった1962年4月2日～1979年4月1日生まれ（34歳以上51歳未満）の女性患者は少なかった。1962年4月1日以前に生まれた者（51歳以上）は男女ともに定期接種の機会がなかった。そのため、女性については40代より50代の患者報告数が多かった。1995年4月から中学生男女と生後12～90か月未満の男女が定期接種の対象になったが、医療機関での個別接種に変更されたため、1979年4月2日～1987年10月1日生まれ（25歳6か月以上34歳未満）の男女の接種率が特に低かった。1987年10月2日～1990年4月1日生まれ（23歳以上25歳6か月未満）の男女も、幼児期に定期接種の機会があったが、接種率は十分とは言えなかった。1990年4月2日以降に生まれた者（23歳未満）は、幼児期に加えて、第2期（小学校入学前1年間）、第3期（中1）、第4期（高3相当年齢）のいずれかで2回目の定期接種の機会をもつが、第4期に2回目の接種機会があった者は、第2期・第3期に接種機会があった者に比べて接種率が低かったため、1990年4月2日～1995年4月1日生まれの者（18歳以上23歳以下）の患者は、これより若い年齢の者より患者報告数は多かった（図4-1,4-2）。

男性の95%は接種歴不明または無し、女性も88%は接種歴不明または無しで、患者数が少なかった小児については、2回の定期接種の効果と考えられる。

一方CRSは、1999年第14週から全例の届出が義務付けられている。これまで2004年の10人が最も多く、その他の年は年間0～2人であったが、2012年～2013年の風疹流行により、2012年第42週～

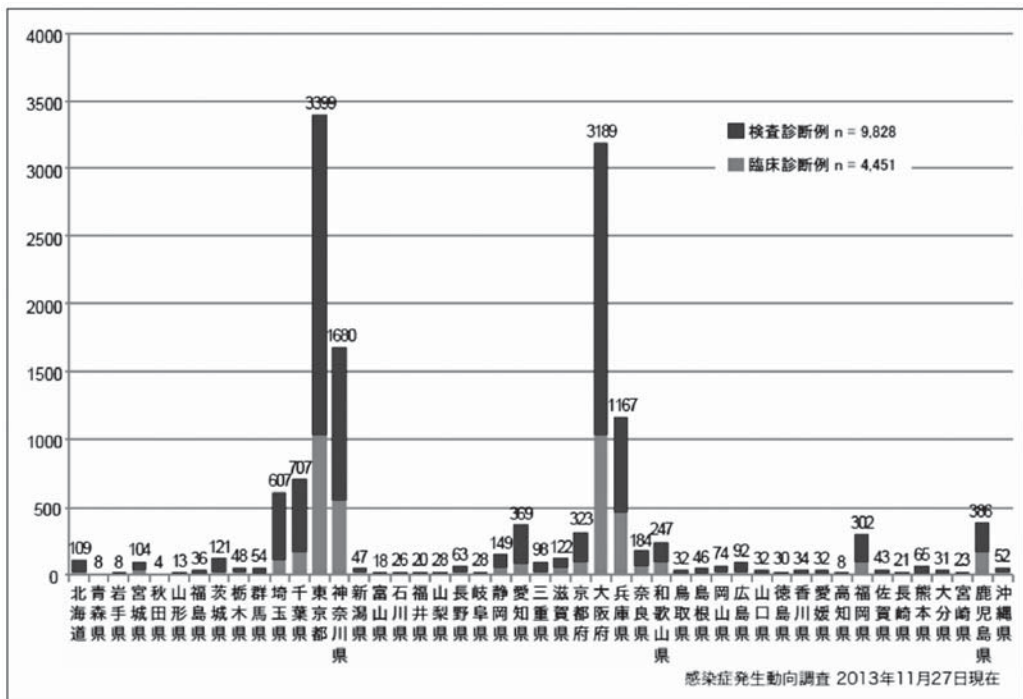


図1 都道府県別病型別風疹累積報告数 2013年第1～47週 (n=14,279)

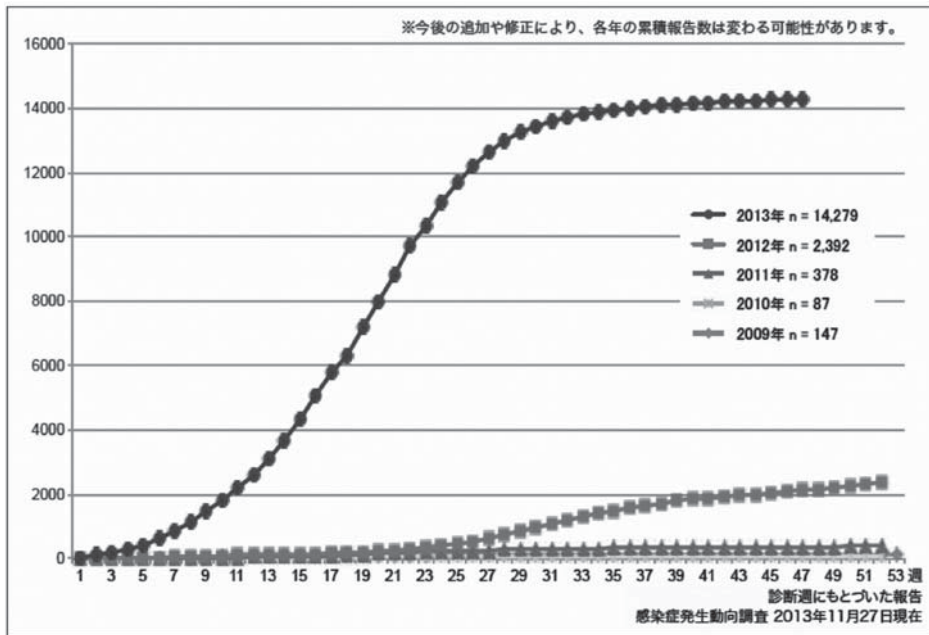


図2 風疹累積報告数の推移 2009～2013年（第1～47週）

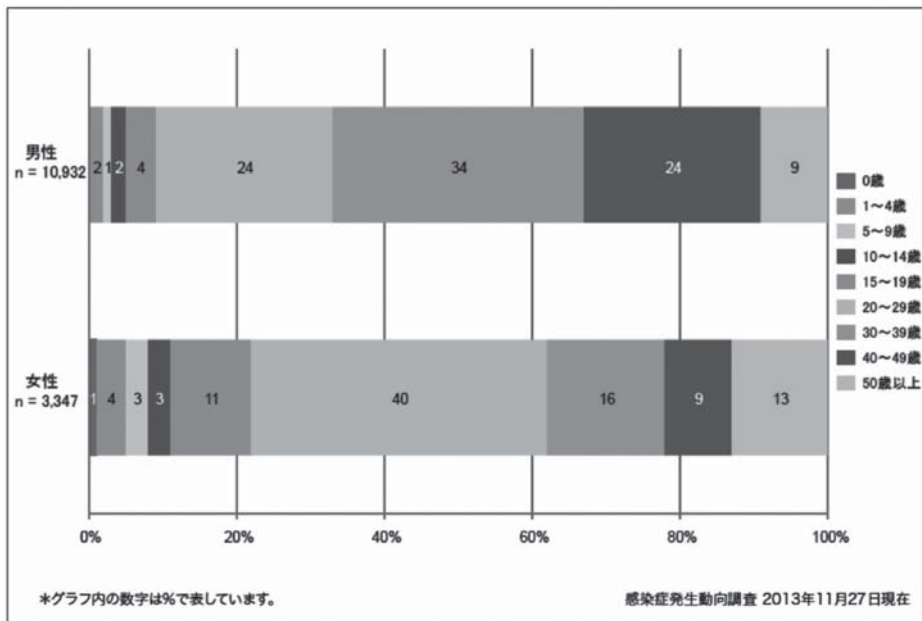


図3 年齢群別風疹累積報告数割合（男女別）2013年第1～47週（n=14,279）

2013年第47週までに29人のCRSが報告された。推定感染地域は、東京都が8人と最も多く、次いで大阪府6人、埼玉県4人、神奈川県3人であった。母親の妊娠中の風疹罹患歴はありが多かったが、不顕性感染で児がCRSを発症した者もいた。ワクチン接種歴は無あるいは不明が多かったが、1回ありの者が4人いた。

現在、厚生労働省では「風疹に関する特定感染症予防指針」の告示に向けた準備が進められている。

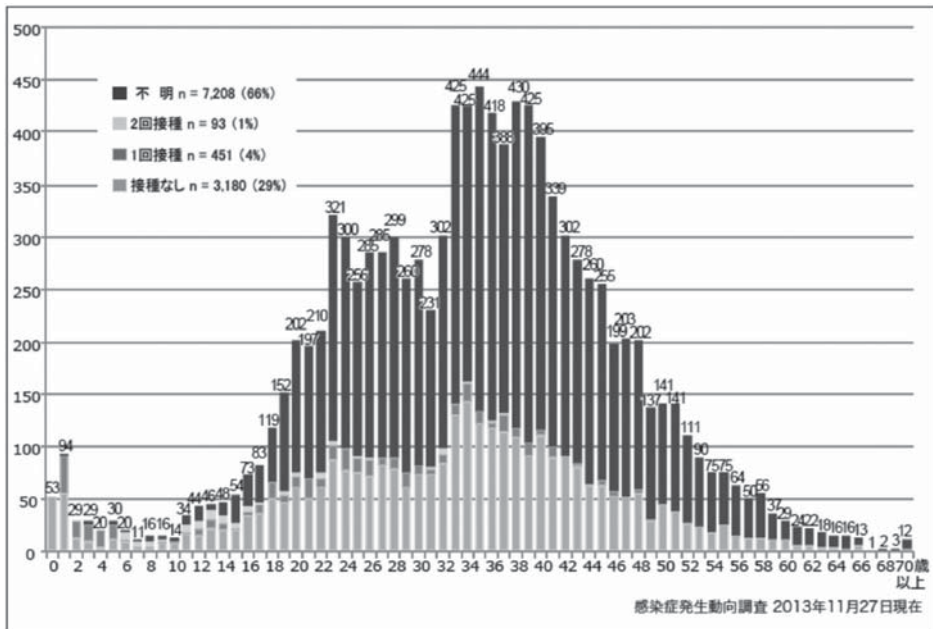


図 4-1 年齢群別接種歴別風疹累積報告数（男性）2013 年第 1～47 週（n=10,932）

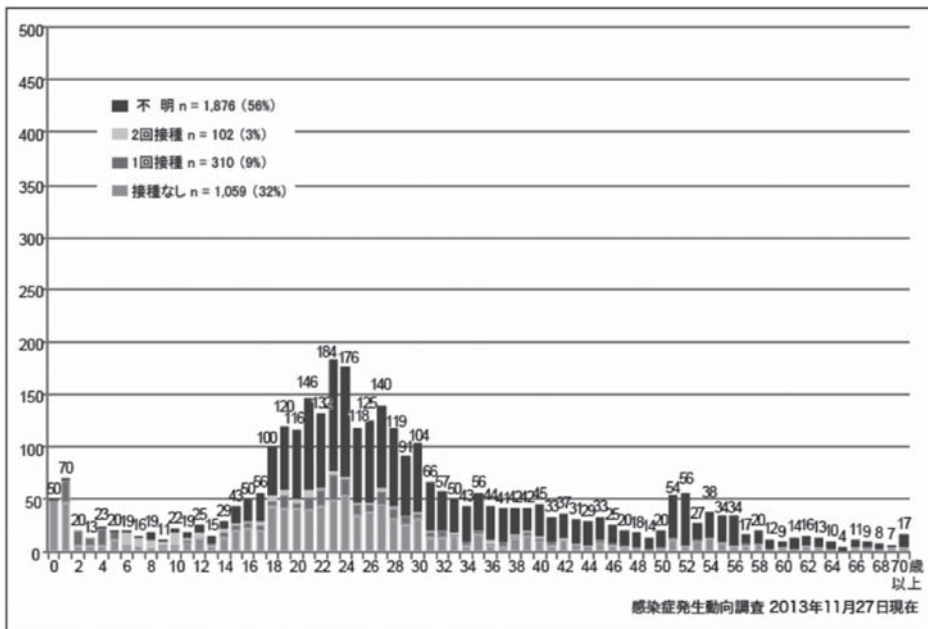


図 4-2 年齢群別接種歴別風疹累積報告数（女性）2013 年第 1～47 週（n=3,347）

もう二度と風疹の流行を国内で起こさないようにするためには、数百万人の単位で残存している成人の感受性者の蓄積をなくし、2回の定期接種の接種率がいずれも95%以上に維持することが重要である。女性は妊娠前に2回のワクチンを受け、妊婦の家族は、風疹ウイルスを家庭に持ち込まないように、あらかじめワクチンを受けて予防してほしい。自分がかからないでいることは、ひいては胎児を風疹から守り、社会全体を風疹の流行から守っていることを国民一人一人が理解して、予防に努めてほしい。

§ 第 18 回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第 1 報）

第 18 回学術集会会長
廣田 良夫
大阪市立大学大学院医学研究科

第 18 回日本ワクチン学会学術集会を、2014 年 12 月 6 日（土）から 7 日（日）の 2 日間、福岡国際会議場で開催することになりました。

学会のテーマは「予防接種の健全な普及に向けて：有効で安全なワクチンを国民の理解のもとで」としました。素朴なテーマですが、予防接種の基本に立ち返って、基礎、臨床、疫学、製造など多分野の方々が、研究開発から応用までの vaccinology を議論する機会になればと考えております。

過去に 2 回、九州で開催されていますが、福岡の地での開催は初めてです。多数の方々のご参加をお待ちしております。

会長：廣田良夫（大阪市立大学大学院医学研究科）

会期：2014 年 12 月 6 日（土）～7 日（日）

テーマ：「予防接種の健全な普及に向けて：有効で安全なワクチンを国民の理解のもとで」

会場：福岡国際会議場（福岡市博多区石城町 2-1）

§ 第 9 回日本ワクチン学会高橋賞・第 3 回高橋奨励賞募集のご案内

2014 年日本ワクチン学会第 9 回高橋賞・第 3 回高橋奨励賞の候補者を公募いたします。応募希望者は下記の要綱に従ってご応募下さい。

応募期間：2013 年 11 月 5 日（火）～2014 年 3 月 31 日（月）（必着）

※ 必ず配達記録の残るものでご応募下さい。

応募書類送付先：〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号新宿ラムダックスビル
（株）春恒社学会事業部内 日本ワクチン学会係
TEL：03-5291-6231/FAX：03-5291-2176

1. 本賞の趣旨

日本ワクチン学会高橋賞は、高橋理明先生の開発された水痘ワクチンが、一般財団法人阪大微生物病研究会によりほぼ全世界で実用化された事を記念し創設された。創設にあたり、同財団より高橋記念基金が当学会に寄贈された。日本ワクチン学会高橋賞は、本学会の創立趣旨に沿って学問的・実学的に卓越した貢献をされた方を授賞の対象とする。

2. 対象者

- 1) 本賞は本学会の創立趣旨に沿ってワクチンに関する基礎研究、臨床応用、製造開発、疫学研究において卓越した貢献をされた方を授賞の対象とし、学術功労賞である「高橋賞」と、若手奨励賞である「高橋奨励賞」の二つの賞を設置する。
- 2) いずれの賞も原則として本学会会員とする。
- 3) 「高橋賞」は、年齢制限を設けない。若手奨励賞である「高橋奨励賞」は 2014 年 1 月 1 日時点で 40 歳未満の者を対象とする。

3. 応募方法

以下の書類を揃えて(株)春恒社学会事業部内 日本ワクチン学会係まで、2014 年 3 月 31 日（月）必着にてお送り下さい。

- 1) 本会所定の申請書【原本とコピー7部を添付】
 - 2) 研究業績の要約（高橋賞 2,000 字以内、高橋奨励賞 1,000 字以内）【原本とコピー7部を添付】
 - 3) 研究業績リスト（別紙1枚以内）【原本とコピー7部を添付】
 - 4) 関連研究業績別刷（5編以内）各8部
 - 5) 自薦の場合には本人の研究についての抱負、他薦の場合は本会会員の推薦状1通（双方ともにA4版1枚まで）【原本とコピー7部を添付】
- ※1)～5)までを1セットとし、計8部を送付すること。
 ※ 研究業績の要約の文中に、関連論文（研究業績リスト）の論文番号を記入すること。
 ※ 応募書類は、当学会ホームページ（<http://www.jsvac.jp/>）よりダウンロードすること。

4. 選考と発表

- 1) 選考は理事長に加えて理事会で承認された学会員以外を含めた合計7名で構成する選考委員会で
行い、委員会での決定事項は理事会での承認を必要とする。
なお、受賞者が選考委員会で決着を見ない場合は理事全員の意見を求める。
- 2) 受賞は原則毎年3名とし、高橋賞1名、高橋奨励賞2名とする。
- 3) 日本ワクチン学会総会にて理事長より盾及び副賞（高橋奨励賞は賞状及び副賞）を授与する。
- 4) 高橋賞受賞者は総会において記念講演を行うとともに当学会が指定する刊行物に総説を発表する。
- 5) 高橋奨励賞受賞者は翌年度の Vaccine Global Congress の JSV 枠プログラムに参加し発表を行う（副賞はその旅費に充てる）。
- 6) 受賞者には2014年8月末までに通知いたします。

以上

§ 2013 年度第 1 回日本ワクチン学会理事会議事録

日 時：2013 年 5 月 10 日（金）17：00～19：00

場 所：国立感染症研究所 感染研第二会議室

出席者：【理事長】倉根一郎

【理 事】城野洋一郎，多屋馨子，千北一興，中野貴司，中山哲夫，長谷川秀樹，真鍋貞夫，
宮崎千明，吉川哲史，西條政幸

【監 事】高橋元秀，山西弘一

【会長代理】菅 秀 [第 17 回学術集会事務局長]

【記 録】古田真塩，横山信哉 [(株) 春恒社]

欠席者：石井 健，庵原俊昭，奥野良信，廣田良夫 各理事

1. 報告事項

1) 前回議事録の確認【資料：1】

倉根一郎理事長から2012年度第2回理事会議事録の報告がなされ、承認された。

2) 一般経過報告【資料：2】

倉根一郎理事長から2013年4月30日現在の会員数の現状を含む一般経過報告がなされた。

3) 平成 24 年度一般会計決算報告【資料：3】

・真鍋貞夫財務担当理事から以下の内容を含む決算報告がなされ承認された。

・2012 年度における年会費請求書発送遅延について、2013 年 4 月 30 日現在での年会費納入率が報告され、2013 年度末の年会費納入率は概ね例年の水準になることが見込まれるとの報告がなされた。

- ・円高の影響を受け、Vaccine 購読料決算額が予算額より低減したことが報告された。
 - ・決算報告に引き続き、高橋元秀監事から平成 24 年度会計監査報告がなされた。また、普通預金の残高が増加しているため、一部を定期口座に移行することが提案され、承認された。
- 4) 第 17 回日本ワクチン学会学術集会報告【資料：5】
- ・庵原俊昭会長が欠席のため、菅 秀事務局長が代理出席し準備状況の報告を行った。
会 期：2013 年 11 月 30 日（土）-12 月 1 日（日）
会 場：三重県総合文化センター（津市）
テーマ：「日本のワクチン：神谷先生の宿題に応える」
 - ・西條政幸理事（Vaccine 誌編集委員長）より、例年はシンポジスト・特別講演の座長や演者に対し、会期終了後に Vaccine 誌の総説執筆依頼を行っていたが、今後は執筆者の負担軽減のため、事前に執筆依頼を行うことを 2013 年度第 1 回 Vaccine 誌編集委員会で決定したことが報告され、協力の要請がなされた。
- 5) 第 18 回日本ワクチン学会学術集会報告
- 廣田良夫次期会長が欠席のため、倉根一郎理事長が代理で報告を行った。
- 会 期：2014 年 12 月 6 日（土）-12 月 7 日（日）
- 会 場：福岡国際会議場
- 6) Vaccine 誌編集委員会報告【資料：6】
- 西條政幸担当理事（委員長）から 2013 年度第 1 回 Vaccine 誌編集委員会報告、Vaccine 誌への今後の掲載予定についての報告がなされた。また、現在の Vaccine 誌掲載状況についての説明がなされ、理事各位に執筆者推薦の要請がなされた。
- 7) ニュースレターについて【資料：7】
- 多屋馨子担当理事から Vol.24 の掲載内容についての報告がなされた。
- 8) 広報委員会報告【資料：10】
- 長谷川秀樹担当理事からホームページ更新についての報告がなされた。
- 9) 高橋賞応募状況報告【資料：9】
- 倉根一郎理事長から 2013 年度第 7 回高橋賞には 1 名の応募者、第 2 回高橋奨励賞には 2 名の応募者があったことが報告された。
- 10) ワクチン推進ワーキンググループ活動報告
- 中山哲夫担当理事から、DT および DPT0.2mL の臨床試験について厚生労働省医薬食品局審査管理課からの臨床試験の要求数が当初の計画より増加しており、これに対しメーカー各社に個別の聞き取りを行う等、対応について検討を重ねていることが報告された。
- 11) 予防接種推進専門協議会活動報告【資料：10】
- 宮崎千明担当理事より予防接種推進専門協議会活動について以下の報告がなされた。
- ・第 18 回、第 19 回代表委員会議の議事について報告がなされた。
 - ・厚生労働大臣への「7 ワクチンの定期接種化に関する要望書」の提出後、2013 年 3 月 28 日の予防接種改正法案成立により 3 ワクチン（子宮頸がん予防、ヒブ、小児用肺炎球菌）が先行して定期接種化され、残る 4 ワクチン（水痘、おたふくかぜ、成人用肺炎球菌、B 型肝炎）についても衆議院ならびに参議院厚生労働委員会において定期接種の対象とすることを検討し 2013 年度中に結論を得る旨が明記された附帯決議が採択されたことが報告された。

・厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会の委員長に岡部信彦先生、副委員長に庵原俊昭先生が選出されたこと、各部会編成（予防接種基本方針部会、研究開発及び生産・流通部会、副反応検討部会）等について報告がなされた。

12) 「日本のワクチン開発と品質管理の歴史的検証」の進捗状況報告

倉根一郎理事長より現在の進捗状況について、それぞれのワクチンのワーキンググループとその分野の専門家との間でリバイスを重ねており、7月までに全体的な時系列の確認を山崎修道先生等、ワクチン史に造詣の深い先生方に依頼する方向で進めていることが報告された。

13) 第16回日本ワクチン学会学術集会報告【資料：4】

清野 宏前会長に代わり、倉根一郎理事長が報告を行った。

収支では150万円強の黒字となったことが報告された。この黒字分については清野 宏前会長の意志を確認した上で改めて理事会に諮問することとした。

2. 審議事項

1) 理事選挙管理委員の選出について【資料：11】

・本年は選挙改選年度であり、現理事の中から理事選挙管理委員が行われた。

・審議に先立ち、倉根一郎理事長から理事の負担を考慮し、在京の理事で委員編成を行うことが提案され、委員長として西條政幸理事、委員として多屋馨子理事、長谷川秀樹理事が選出された。

また、選挙の透明性の観点から国立感染症研究所以外に所属の理事を加えることが提案され、委員として中山哲夫理事が選出された。

・倉根一郎理事長から理事選挙実施要領案が示され、承認された。

2) 会員名簿作成について【資料：12】

・本年は名簿作成年度であるため、事務局よりスケジュール、名簿調査案内状ならびに調査票の各案が示され、審議が行われた。

・名簿調査の掲載条件について、返信が無い場合もしくは返信があっても掲載先の指定が無い場合、従来は原則として登録連絡先住所等を掲載していたが、個人情報保護の観点から未回答者の情報については掲載を控えることが提案された。審議の結果、本年度より上記に該当する場合、登録連絡先住所の掲載は行わず、掲載は名前・会員番号・専門分野までに止めることが承認された。

3) 高橋賞選考委員会委員の一部改選について【資料：13】

高橋賞選考委員3名の改選にあたり選挙を行い、吉川哲史先生（新任）、中野貴司先生（新任）、長谷川秀樹先生（新任）が上位得票となり、承認された。（次点：城野洋一郎先生）

4) 多年度会費滞納者の退会処分について【資料：14】

3年以上会費滞納者（28名）の一覧が配布され、2012年度年会費請求状況も考慮の上検討を行った結果、例年通り滞納者に再度会費請求を行い、本年5月末日までに入金のない場合は、退会処分とすることが承認された。

5) 第19回日本ワクチン学会学術集会について【資料：15】

第19回学術集会会長として石川豊数先生（阪大微生物病研究会観音寺研究所）が推挙され、後日、倉根一郎理事長より本人の意思を確認の上、理事会に報告することとした。

（その後、石川豊数先生は諸事情により辞退され、2013年5月29日に行われた持ち回り理事会

で推薦を受けた尾崎隆男先生が全会一致で承認された。これにより尾崎隆男先生を第 19 回会長として第 17 回総会に諮ることとした。）

以上
2013(平成 25)年 5 月 10 日(金)
日本ワクチン学会
理事長 倉根一郎

§ 2013 年度第 1 回 Vaccine 誌編集委員会議事録

日 時：2013 年 5 月 10 日(金) 16 時 00 分～17 時 00 分

場 所：国立感染症研究所(戸山庁舎)共用第三会議室

出席者：【委員長】西條政幸

【委員】大石和徳, 城野洋一郎, 熊谷卓司, 多屋馨子, 中野貴司, 中山哲夫

【ワザバー】倉根一郎

【記録】古田真塩, 横山信哉((株)春恒社)

欠席者：【委員】奥野良信, 清野 宏, 小西英二, 谷口清州

1. 前回議事録の確認【資料：1】

西條政幸委員長から前回議事録についての報告がなされ、承認された。

2. Vaccine 誌への掲載原稿の進捗状況【資料：2】

以下の原稿の進捗状況の報告がなされた。

①第 15 回学術集会シンポジウム 1 より「H5 パンデミックウイルスの最近の情報」(迫田義博先生)

②第 7 回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説(尾崎隆男先生)

③第 16 回学術集会「JSV/ISV Joint Symposium」より

(石井 健先生、川口 寧先生、Mi-Na Kweon 先生、Nirajan Y.Sardesai 先生、Ann S.De Groot 先生)

④第 16 回学術集会シンポジウム「ポリオワクチンの基礎」(宮村達男先生、小池 智先生)

⑤第 16 回学術集会シンポジウム「ポリオワクチンの基礎」より「ポリオ根絶計画とポリオワクチンの将来」(清水博之先生)

⑥ LC16m8 に関する最新の研究成果についての総説(橋爪 壯先生、西條政幸先生、横手公幸先生)

3. 今後の掲載予定について

①第 15 回学術集会教育セミナー 2 より「我が国の結核の状況とワクチン戦略」(御手洗聡先生)

②第 15 回学術集会発表より「Frontiers of transcutaneous vaccination systems: Novel technologies and devices for vaccine delivery」(中川晋作先生)

4. 今後の執筆依頼について

1) 西條政幸委員長から 2012 年度の Vaccine 誌における年間掲載論文数についての報告がなされ、積極的に執筆者の推薦を行っていくように委員に要請がなされた。

2) 従来、学術集会終了後に行っていた特別講演やシンポジウムの演者への執筆依頼をプログラム決定時より行っていくことが提案され、第 17 回学術集会会長の庵原俊昭先生にご協力を仰ぐことが決定した。

3) 廣田良夫先生の「OPV と IPV の互換性の検討」に関する研究について、中野貴司委員より執筆依頼を行う。

5. その他

1) Vaccine 誌未掲載の論文について

エルゼビア社に入稿しているにも関わらず、下記の原稿が Vaccine 誌に掲載されていない可能性があることが事務局より報告された。今後は状況を正確に把握した上で執筆者と共に対応を検討することが確認された。また、掲載確認を徹底するよう事務局に要請した。

- ・ 第 14 回学術集会シンポジウム 1 総括（神谷 元先生）
- ・ 第 16 回日本ワクチン学会学術集会会告（清野 宏先生）
- ・ 第 17 回日本ワクチン学会学術集会会告（庵原俊昭先生）

2) 次回の委員会について

11 月の第 17 回学術集会時に開催する予定。

以上

平成 25 (2013) 年 5 月 10 日 (金)
日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会
委員長 西條政幸

日本ワクチン学会ニュースレター 第 25 号

2013 年 12 月 18 日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局
〒 162-8640 東京都新宿区戸山 1-23-1 国立感染症研究所
日本ワクチン学会理事長 倉根 一郎

<http://www.jsvac.jp/>

<学会連絡先・入退会・住所変更・年会費>

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号
新宿ラムダックスビル

(株) 春恒社 学会事業部内

日本ワクチン学会係

TEL : 03-5291-6231/FAX : 03-5291-2176/ E-mail : jsvac@shunkosha.com
